

学校だより

パラリンピアンの方から学んだこと

校長 高橋 秀吉

去る9月15日(金)、全校生徒対象にパラリンピアンの方の藤原滋男(よしはら しげお)さんの講演会を実施しました。この企画は横浜市で取り組んでいるもので、2020年実施予定の東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機にスポーツ振興を図るため、子どもたちが直接オリンピックやパラリンピアンと触れあう機会をもつ事業の一環です。

藤原(通称・ヨッシー)さんはシドニーパラリンピックに自転車競技で出場し、世界新記録で金メダルを獲得しました。藤原さんは、網膜色素変性症という難病のため22歳で視覚障害者になり、現在は光が見える程度まで視力が低下しているそうです。

藤原さんは自身の長所である運動神経の良さを生かし、走り高跳び、自転車競技でパラリンピックに出場し、金銀銅合わせて4個のメダルを獲得した経験をお持ちです。その後、ブラインドサッカーに転向、2007年から2011年まで日本代表メンバーとして活動し、国際大会で日本人初のハットトリックを決めました。

そんな藤原さんからの講演と実演でしたが、私自身さまざまなことに気づかされ、考えさせられました。まずは、「自分自身の長所を生かす」ということです。誰しも得意なこともあれば苦手なこともあります。また、その人が持っている「持ち味」というものもあります。藤原さんの場合は「運動神経の良さ」が長所ですが、そのことを強みとして生かし続けていることです。これからはスキーとサーフィンにもチャレンジしようというので、その意欲に圧倒されます。

次に、「失敗から多くのことを学べるので、失敗が楽しい」ということです。このことも大いに参考になります。ともすると、私たちは失敗を恐れ、失敗しないようにすることに集中し、目の前のことだけにとらわれてしまいがちです。藤原さんは、もっと進歩したい、もっと高いレベルに自分をもっていきたいという思いから、失敗をマイナスではなくプラスにとらえ、「なぜ、失敗したのだろう」「どうすれば、成功するのか」と考え続け、挑戦し続け、目標に向かって前進し続けているように思います。

これらのことから、「こうしたい」「こうなりたい」という自分自身の思いを強く持ち、そのために失敗を繰り返す中から次へのヒントを得て、自分自身の可能性を押し広げ続けている人としての充実感と存在感を藤原さんから強く感じました。

私と年齢的にはそれほど変わらない藤原さんの挑戦し続ける姿は私にとってとても刺激的でしたし、人としての在り方の参考にもなりました。生徒の皆さんもそれぞれに感じたことがあったと思います。まずは、小さなことでもいいのでチャレンジしてみましょう。



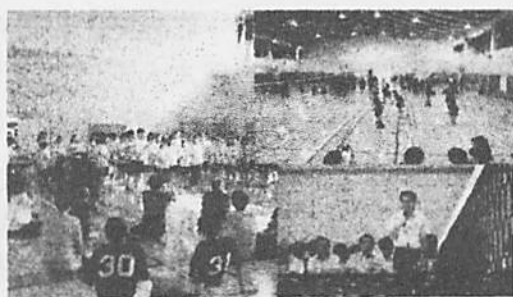
◆ 葭原さんの講演・実演の様子をご紹介します ◆



健民祭へのご協力、ありがとうございます！

9月10日（日）に台中と日吉南小学校を会場に、横浜市内最大規模の日吉地区健民祭が実施されました。毎年のことながら港北区長も来賓としてご参加いただき、本校での開会式を行った後、それぞれに熱戦が繰り広げられました。

この健民祭で想うことは、あらためて子どもは地域の子どもであり、学校は地域の学校であるということです。地域のチームに台中生や台中卒業生が参加して活躍している姿や、スポーツ推進委員や青少年指導員の方々をはじめ大会運営にご尽力いただいている地域の方の元気な姿に触れることで、日吉地区全体の活気と一体感が増しているように感じます。ご協力いただきました地域や参加者の皆さま、ありがとうございます。



横浜市立中学校教育研究会理科部会主催の公開授業実施

9月27日（水）の5校時に横浜市立中学校教育研究会理科部会主催の公開授業が第一理科室で行われました。授業クラスは3年6組で、授業は担任である長谷川教諭が行いました。「探究的な活動を支えるICTを用いた指導法の研究」というテーマで継続的に研究を行ってきた成果を授業に反映させたものとなりました。

生徒はグループごとにiPadを活用し、前回の授業の実験の様子を動画や写真で確認しながら実験の結果から推測できる事柄について考えました。まずは個人で考え、次にグループ内で個人の考えを共有化してホワイトボードにまとめたものを全体の場でそれぞれのグループが活発に発表しました。

その発表の様子をiPadで大型ディスプレイに写し、他のグループが見やすい状況にしていました。

教育委員会の指導主事や横浜国立大学の先生も見えて、その後の協議会も充実したものとなりました。

